

## 編集後記

P2M マガジン編集委員長 亀山秀雄

師走に入り、皆様ご多忙のことと拝察いたします。当方も種々雑多な会議が津波のように目白押しに押し寄せてきまして、発刊が予定より10日ほど遅れてしまいました。年内にお届けできることで良しと勝手に思っております。

新年にゆっくりお読みいただければ幸いです。

2016年は第5期科学技術基本計画の始まりの年でありました。第4期が「課題達成」を標榜し過ぎたために、長期的な視点に立った基礎研究が軽視されることになった反省から、「未来創造型」もともに重視した科学技術政策に路線を変更しています。

新しい科学技術政策が目標としているのが「超スマート社会」(Society 5.0)の構築です。この超スマート社会とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」であると言われていきます。このような社会は、複雑性、多義性、不確実性、拡張性を多分に持った成熟社会であります。そこで生じる課題の解決にはプログラムマネジメントが必要とされると思います。

実際にプログラムマネジメントを教育の中に取り入れる私立大学が増えていきます。P2Mをマスターして実践経験を積むことにより大学での教育に携われる可能性が高くなってきています。海外でも同様に中国、ベトナム、韓国、台湾、フィリピンでもP2Mを知りたいという要望が出

てきています。グローバルな経済活動でも役立つと思われます。

本学会は、そのような社会のニーズを先取りして、2005年に設立され、学会発表や論文誌の発行を通じて、P2Mの学理の構築に努めてきています。論文誌は、2006年のVol. 1、No. 1から2016年Vol. 11、No. 1まで発行され、258報の論文が掲載されています。

このP2M マガジン2号で田隈先生からの報告にあるようにVol. 11、No. 1から冊子体を発行を廃止して、完全に電子ジャーナルに移行し、国内の電子ジャーナルの発行・公開を支援するWebシステムJ-Stageで過去の論文も含めて公開されることになり、国内外の人が自由に閲覧できる体制になりました。3年後の目標は、和文と英文の混合の発行から、和文誌と英文誌が独立して発行される体制を作ることです。

そのために、英語での論文発表の機会を設けるために、国際会議の開催をASCONEで2年に1回、そのほかアジアの国からの要望に応じて2国間でのミニ国際会議(来年3月にフィリピン)を開催するように計画しています。韓国からも開催の要請が来ています。

本学会に所属している会員の方とまだ会員になっていないでこのP2M マガジンを購読している方もこの機会に、自分の仕事の内容をP2M理論で解析して、自分の仕事の価値創造の生産性を高めていただき、その成果を本学会で発表していただければと思います。

2017年もP2M学会の発展の年になりますように願って筆をおきます。